

研究の概要と今年度の研究

平成30年4月10日（火）

石中社研究員 鎌田 基

（千歳市立勇舞中学校）

I. 研究主題

未来をきり拓く力をつけた子どもの育成

～社会的な見方・考え方を働かせて、学びを深める授業と教材・教具の工夫～

II. 研究仮説

社会的事象の見方・考え方を働かせて、思考・判断・表現の力を高める活動を設定し、指導内容や学習活動に応じて工夫した教材や教具を用いる授業を展開することで、現代社会の課題を解決する力や変化の激しい社会を生き抜ける力など「未来をきり拓く力」を育成することができる。

III. 2か年研究のロードマップと今年度の研究について

思考・判断する過程を経て、表現する活動につながっていることは、昨年度までの取り組みで明らかになってきた。しかし、思考・判断・表現力の育成は、必ずしも分けられるものではない。すべてが密接に関連し合っている。「表現力の育成」だけを取り出して研究を進めた結果、「表現力＝技能」となりかねないことや、道徳的な方向に結論が導かれてしまう恐れもある。社会科としての本来の目指すところ＝社会認識に裏付けされた価値判断や社会参画力・・公民的資質の育成を見失わないようにしたい。

そこで、今年度からの研究では、新学習指導要領の施行も見据えて、「見方・考え方」を柱に研究を進める。平成33年度から完全実施となるが、その前年度（32年度）から先行的に新たな研究主題を設定し、取り組むこととする。そのため、今年度からの2年間は、現研究主題の総括的な研究に取り組みつつ、新研究主題にスムーズに移行できるように配慮しなければならないと感じる。こうした理由や、新指導要領のキーワードが「見方・考え方」であることから、これを柱とする副題を設定して、2か年研究を設定する。

また、「見方・考え方」を柱とした研究を進めるうえで、教材や教具の工夫も併せて研究することにする。

さらに、「見方・考え方」の基礎研究も併せて行なわなければならないが、必要な情報をこちらから積極的に発信していきたい。

1年次 授業者が、見方・考え方を明らかにした授業の展開と教材・教具の工夫

今年度の石中社部会員

全員の取り組みとして…

- ① 思考・判断・表現の力を高めるために、単元や本時における社会的な見方・考え方を授業者が明確にし、学習活動を展開する。
～学習者に提示する社会的な見方・考え方には、どのようなものがあるか。
効果的な教材や教具を、どのように活用するか。
- ② 第二次研究協議会時（10月12日）に、実践例をまとめたレポートの交流をする。
～提出レポートは、今年度も指導案形式にはこだわりません。

＝第二次研究協議会の授業やレポートについて＝

今年度の第二次研究協議会は、江別市で開催されます。研究の重点を踏まえ、授業者が思考・判断・表現の力を高める学習活動を展開するうえで、「学習者に提示する社会的な見方や考え方がどのようなものなのか」「教材や教具の工夫」を盛り込んだ授業の公開やレポートの作成をお願いします。

2年次 学習者が、見方・考え方を働かせて、社会への関わり方を選択・判断する授業の展開と教材・教具の工夫

- ① 学習者が、社会的な見方・考え方を働かせ、事象についての意味や価値を思考したり、社会に対する自分の関わり方を判断できたりする学習活動を展開する。
- ② 指導内容や学習活動に応じて工夫した教材や教具を活用して授業を展開する。

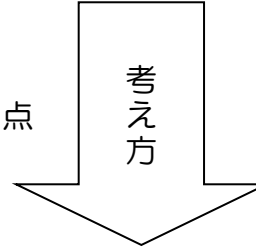
「見方・考え方」とは？

学習の問題を追究・解決する活動において、社会的事象の特色や意味などを考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりするための「視点や方法」である。

位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などが着目する「視点」であり、社会的事象を捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすることが追究の「方法」である。

1. 地理的な見方（視点）・考え方（追究の方法）の例

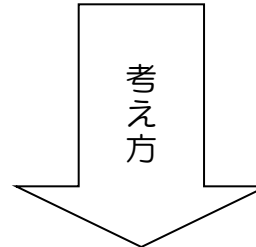
- ・位置や分布に関わる視点
- ・場所に関わる視点
- ・人間と自然の相互依存関係に関わる視点
- ・空間的相互依存作用に関わる視点
- ・地域に関わる視点



環境条件や他地域との結びつきなどを地域等の枠組みの中で人間の営みと関連付ける

2. 歴史的な見方（視点）・考え方（追究の方法）の例

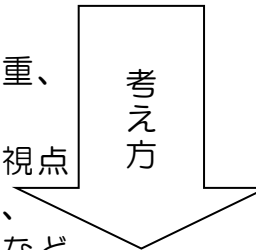
- ・年代の基本に関わる視点
- ・諸事象の推移や変化に関わる視点
- ・諸事象の特色に関わる視点
- ・事象相互の関連に関わる視点



共通性や相違点などを明確にしたり、因果関係など事象どうしを関連付ける

3. 公民的な見方（視点）・考え方（追究の方法）の例

- ・現代社会を捉える視点
対立と合意、効率と公正、個人の尊重、自由、平等、選択、配分など
- ・社会に見られる課題の解決を構想する視点
対立と合意、効率と公正、民主主義、自由・権利と責任・義務、国際協調など



現代社会の課題解決に向けて多様な概念と関連付ける

「教材・教具」とは？

石中社では、学習素材や内容、それを示した諸資料など、情報的なものを「教材」と定義します。一方、教材を効果的に習得させるために使用する道具や機器など、物的なものを「教具」と定義します。従って、黒板（電子黒板）、書画カメラ、パソコン、掛図、地球儀、マグネットシート、マーカーペン、実物資料などが「教具」にあたります。なお、生徒が所持・使用する教科書、資料集、地図帳などについても、今回の研究では「教具」として扱うこととします。

研究計画の詳細については、『石教研』（2018年3月発行）の「社会(中)部会研究計画」をご覧ください。

また、石中社ホームページでも、様々な情報を提供してまいりますので、是非ご活用ください。

石中社 (<http://www.sekikyoken.com/bukaiHP/s04/s04index.htm>)

今年度も、宜しくお願いいたします！